

- 主な内容
- 高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の対策 ……1-2
 - 子牛の成長を妨げないために下痢を予防しよう!!! ……3-4
 - 牛ウイルス性下痢（BVD）を適切なワクチン接種で予防しましょう。 ……5-6
 - 豚熱ワクチンの農場管理者による接種が始まりました ……7-8



高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の対策

中小家畜課 小家畜担当

10月4日に回収された北海道の死亡カラスから、HPAIウイルスが検出されました。全国の野鳥サーベイランスにおける対応レベルも2へと引き上げられています。改めて養鶏農場への侵入防止対策を確認し、徹底しましょう！

昨シーズン（2022 - 2023）の概要

○ 発生時期及び発生件数

昨シーズンの家きんにおけるHPAIは、過去最も早いR4.10.28（岡山県）に始まり、R5.4.7（北海道）の最終発生まで過去最多の26道県で84例発生しました。近年、流行の開始が早く、終了が遅くなる傾向がみられ、これは侵入リスクの高い時期が長く続く傾向にあります。



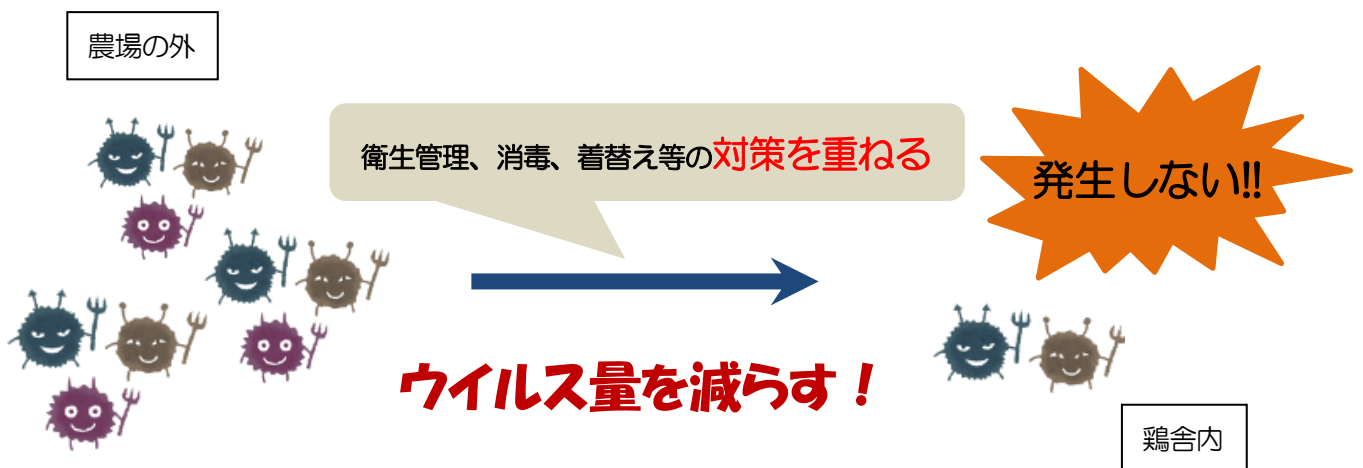
○ 野鳥、野生動物での感染

全国で水禽類だけでなくカラス等野鳥の感染が目立ち、環境中に拡大していることが確認されました。鹿児島県ではツルの大量死例も確認されています。また、キツネなどの身近な野生動物からもウイルスが検出されました。

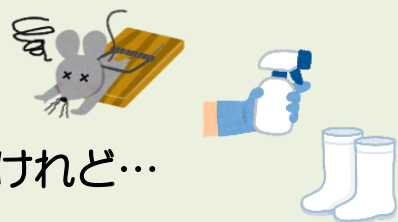
衛生対策の目標

○ 対策の考え方

感染試験では、鶏が死亡するまでの平均日数（2.0～6.2日）に幅がありました。死亡するまでの日数が長い（潜伏期間が長い）ウイルスの場合は、発見が遅れ、感染拡大してしまうリスクも示唆されました。また、低濃度では感染・発症しなかったという結果も報告されています。つまり、ウイルスが万が一侵入しても、量が少なければ発生を防止することも可能なのです。



ウイルスを0にすることは難しいけれど…



対策を重ねて、侵入リスクを減らしましょう!!

子牛の成長を妨げないために下痢を予防しよう！！

大家畜課 衛生担当

子牛が下痢を発症すると、その後の成長に大きな影響が生じる可能性があります。下記を参考にしながら、大切な子牛を守りましょう。

1 初乳を十分飲ませましょう

- 初乳には免疫成分が豊富
- 子牛が生まれたら、直ちに初乳を与えることが大切
- 分娩前の妊娠母牛には下痢予防のワクチン接種（次ページ参考）をして、初乳免疫を強化しましょう



2 病原微生物の感染を防ぎましょう

- 病原体の持込防止 ⇒ 清掃・消毒、衣服・長靴交換
- 密飼による伝染防止 ⇒ 発病牛の隔離
- 牛床の乾燥



3 ストレスから守ろう

- 環境ストレス防止 ⇒ 暑さ・寒さ・隙間風を防ぐ
- 密飼ストレス防止 ⇒ 十分なスペースを確保

4 給与飼料をチェックしよう

- 飼料の変質・変敗に注意
- 乳房炎乳・異常乳（血乳等）は給与しない

5 生菌剤・ビタミン剤を応用しよう

- 生菌剤を離乳時まで添加
- ビタミン剤・経口補液剤による体力保持



6 こまめに便を観察しよう

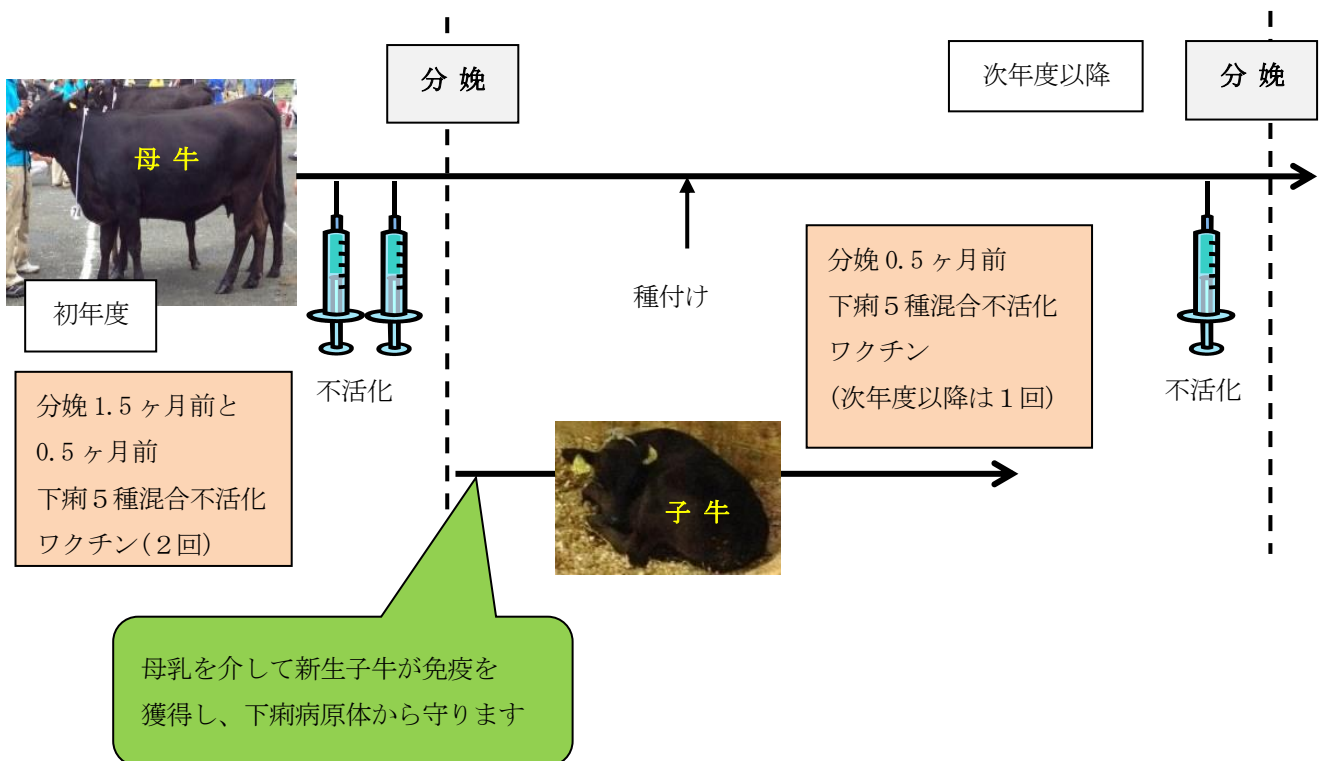
- 下痢の早期発見・早期対応、獣医師への早期連絡を

＜＜岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから＞＞

《和牛子牛に見られる主な下痢の症状と特徴》

区分 原因、病原体 の種類	非感染性		感染性				
	母乳性、 消化不良	ウイルス性		細菌性		原虫性・寄生虫性	
		ロタウイルス	コロナウイルス	大腸菌	サルモネラ菌	クリプト スポリジウム	コクシジウム
発熱	なし	あり	あり	なし～あり (重症で低体 温)	あり (40℃以 上)	なし (重症で 低体温)	なし
便性状	泥状～ペースト 状	水様	水様～泥状	腐敗酸臭	泥状～水様	水様	粘血便
色	灰白色	黄白～灰白色	褐色	黄白～灰白色	黄白～褐色	淡黄～淡緑色	暗赤色
臭い	なし～酸臭	なし	なし	腐敗臭～酸臭	悪臭～生臭い	なし	なし
血液混入	なし	なし	あり	なし～あり	なし～あり、 重症で偽膜混 入	なし	あり
好発月齢	1か月齢以内	1週齢未満	子牛～成牛	2週齢未満	子牛～成牛	5日齢未満	1～12か月齢
季節性	通年	冬季	冬季	通年	通年	1週齢未満	通年

《子牛下痢対策のワクチン接種例》



※ワクチン接種については、かかりつけの獣医師に相談願います。

牛ウイルス性下痢（BVD）を適切なワクチン接種で予防しましょう。

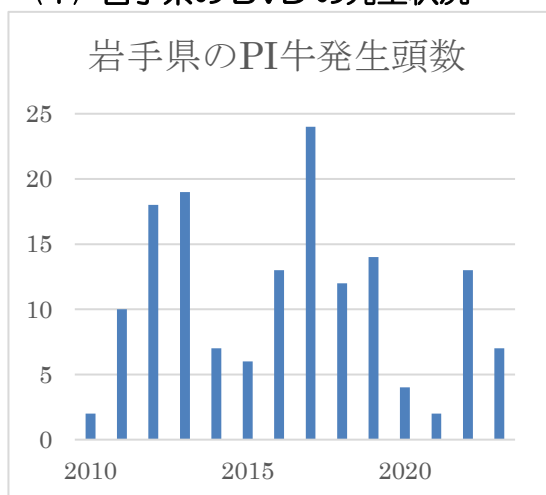
大家畜課 防疫担当

BVDは、牛ウイルス性下痢ウイルス（BVDV）の牛への感染により、引き起こされる病気です。感染牛には、一過性に発熱、呼吸器病、下痢などの症状が見られます。妊娠牛が感染すると、胎子に垂直感染し、流産・死産や奇形のほか、一生涯ウイルスを排出し続ける**持続感染牛（PI牛）**の娩出を招きます。

PI牛は、ウイルスを継続的に排出するため、牛群内に感染が拡大し、農場に大きな経済損失をもたらします。BVD対策では、PI牛を検査により見つけて淘汰するとともに、ワクチン接種により胎子への垂直感染を予防することが重要となります。

この度、国内で初めて**胎児への垂直感染防止**を効能とし、**妊娠牛にも安全に接種可能な新しいBVD生ワクチンが発売予定**になりました。これまで、接種時期や対象牛の選定が煩雑でしたが、妊娠牛を含めた全頭一斉接種が可能となり、一層効率的なBVD対策が可能になりました。

(1) 岩手県のBVDの発生状況



県内でも全国と同様に毎年PI牛が発見されています。

県内の調査では、死亡牛の**0.38%からウイルスが検出**されており、県内の飼養頭数（13万頭）から推定すると、**県内には約500頭のPI牛**が存在することが示唆されます。

発見されているものは、氷山の一角にすぎず、県内には多くのPI牛がいる可能性があります。

(2) BVDVの流行による経済損失を考えるとワクチン接種の方がお得

県内でBVDVが流行した1乳用種育成牧場（約165頭飼養）において、BVDV流行期間（108日間）の**経済損失を推定したところ、220万円**（内訳：治療費61万円、流産による損失50万円、PI牛淘汰による損失109万円）となりました。ワクチンを全頭に2回接種した場合の費用を約75万円とすると、**費用便益比は1：2.9**となり、**ワクチン接種は費用に見合う十分な効果がある**と考えられます。

(3) BVD 対策におけるワクチンの種類及び推奨される接種法

種類	ワクチンに含まれるウイルス		妊娠牛への接種	回数	推奨される接種法
	BVDV 遺伝子型	呼吸器			
2種混合生ワクチン (今後発売予定)	1b/2a	なし →別途検討必要	○	年に1回	○育成牛に接種 ↓ 以降、毎年1回 同ワクチン接種 呼吸器病対策として、 鼻腔内投与ワクチン などと併用 OPI牛検出後の 緊急ワクチン
5種混合生ワクチン	1a	4種	×	年に1回	○育成牛に 生ワクチン 1回接種 ↓ 以降、毎年1回 不活化ワクチン 接種
6種混合生ワクチン	1a/2a				
5種混合不活化ワクチン	1a or 1b/2a	3種	○	1年目 2回 以降 年に1回	○不活化ワクチン 1年目2回接種 ↓ 以降、毎年1回 不活化ワクチン 接種
6種混合不活化ワクチン	1a/2a 不活化	4種			

BVDの対策やワクチンプログラムについては、
獣医師や家畜保健衛生所にご相談ください。

豚熱ワクチンの農場管理者による接種が始まりました

中小家畜課 中家畜担当

これまで豚熱ワクチンは、家畜防疫員（獣医師）又は知事認定獣医師が接種を実施してきましたが、「豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針」（農林水産大臣公表）の一部改正により、認定農場において、登録を受けた飼養衛生管理者の接種が可能になりました。

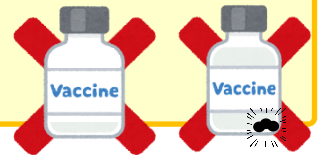
岩手県では、令和5年4月から「登録飼養衛生管理者制度による豚熱ワクチン接種」の運用を開始しています。本制度による接種を行っている農場の皆様は、以下のポイントを確認し、適時適切なワクチン接種により、豚熱から農場を守りましょう。



今一度、ワクチン接種の注意点を確認しましょう！

✓ 接種前

- 獣医師が交付する「接種票」に従い、接種日齢、接種頭数を確認しましょう
- 豚の健康状態を確認しましょう
- 外観又は内容に異常があるワクチンは使用しないでください
- ワクチンはよく混ぜましょう



✓ 注射針の取扱い

- 適切な太さと長さの針を使用し、薬液が筋肉内に確実に入るようにしましょう
- 針は豚房ごと（母豚の場合は1頭ごと）、ワクチン瓶ごと等、適切に交換しましょう
- 注射中に針が曲がった場合は直ちに未使用の針に交換してください
- 注射針の残存がないか、接種前後で注射針の本数を適切に管理しましょう

✓ 接種方法

- 注射の方法：筋肉内接種が基本
- 接種部位：耳根部後方の頸側部（子豚等）、臀部（母豚や雄豚）
- 筋肉内注射は、皮膚に対して直角に行いましょう



写真：一般社団法人日本
養豚開業獣医師協会提供



県南家畜保健衛生所では、家畜衛生に係るタイムリーで有用な情報（注意喚起すべき情報）を関係者間で共有し、地域の家畜衛生の向上に役立てる目的で、年4回「県南家畜衛生情報」を発行しています。発行された情報誌は順次、当所HPにデジタルコンテンツ（PDF）で掲載されておりますので、御活用ください。

お問合せは下記までお願いします。



〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字東館 41-1
岩手県県南家畜保健衛生所 Tel 0197-23-3531 Fax 0197-23-3593
岩手県南家畜衛生推進協議会 Tel 0197-24-5532 Fax 0197-23-6988

【HP アドレス】

<https://www.pref.iwate.jp/sangyoukoyou/nougyou/desaki/kennan/index.html>